

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型事業所きらめき読谷			公表日		令和8年 4月 1日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5			2
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6	1	・利用当日にマンツーマン対応が出来る時には臨機応変に職員配置を変更して対応している。	・人員シフト配置は足りているが、職員の急な休みや複数の車両送迎時など日によって不足に感じない体制づくりに努めたい。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	・子供用の便座やトイレと洗面台の踏み台を児童に合わせて設置している。場所により点字表記をしている。	・個室をもう一つ欲しい要望に対してスペースを設ける事は可能である事を周知したい。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	・整理整頓で清掃しやすい環境を保ち、より清潔な環境を作っている。	・個別活動を集中して出来る部屋の確保は必要に応じ臨機応変に対応したい。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	・活動支援室と隣接の相談室とは別にスペースを設けることも可能である。	・集中できる空間の確保、環境設定は整理整頓で実現可能。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	3	・年間目標設定と半期の振り返りで長期での改善と、事業所会議で短期的業務改善を進めている。	・多様な働き方もあり各々の業務を担う職種に応じて進めている。コミュニケーションで補いたい。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	・職員全員が確認できるよう掲示して、ケア会議の中でも保護者の意向を周知している。	・支援および業務内容の改善につなげるよう、今後も努力は必要である。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	2	・半期に1回の個別面談時に各々の意見を聞き取る機会がある。	・意見要望は全体での事業所会議や個別にも意見を傾聴し把握して、優先順位を決めてすすめる意識が必要である。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	4	・法人内ではあるが本部から評価を受けて、課題と業務改善を図っている。	・必要によって適時、第三者による外部評価を検討したい。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	・全社員対象に法定研修含めて週に1回15分～30分動画配信し、各々のスマホからでも受講できるシステム整備をしている。	・管理者は自治体開催の専門研修を任意で受講しているが、伝達講習もしていきたい。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	・5領域の本人支援中心にホームページで公表している。	・変更が生じた際は速やかにアップデートする必要がある。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	・ケア会議に全員の意見を取り込めるように時間調整と紙面でも確認できる方法も取っている。	・個々の年代別の課題に応じたプログラムも見直しを持ち、詳細丁寧に実施する必要がある。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	・職員全員から漏れなく聞き取りし、多角的に共通理解の下に計画を作成できるように意見を聞き取りしている。	・こどもの最善の利益を考慮した計画作成を、今後も意識して取り組む必要がある。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1	・支援内容が共有できるようにファイリングして閲覧しやすくしている。	・サービス計画作成後も、日々確認できる方法を工夫して、計画に沿った支援が進められるように意識づけは必要。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1	・適応行動の標準化ツールは使用してはいるが、日々の行動観察を主に職員間でアセスメントをしている。	・フォーマルなアセスメントを取り入れる必要はある。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	1	・「移行支援」や「地域支援・地域連携」は児童によりバラつきがあり個別対応で工夫している。 ・医療的ケア児において地域移行し終了したこどももあり、可能な限り目標設定を今後も実施していきたい。	・体調管理面から集団では実現が難しいことが多く、個々の特性に応じて地域支援と地域連携に積極的に取り組む知恵と工夫は課題である。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	・担当中心に5領域と防災観点でプログラムを決めて確認している。	・家族支援、地域連携含めて、チームの意見をより取り込み易くするための知恵と工夫が必要である。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	・職員からの提案と、こどもの意見を取り入れるなどしている。	・プログラムがこども中心に行えるように、提案可能なこどもの意見や保護者の意見および他事業所の方法も参考に工夫したい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	1	・こどもの特性と状況に応じて個別・集団活動計画を作成し支援している。	・集団活動が不十分な所は職員間で意見を出し合えるコミュニケーションは必要である。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	・支援の打ち合わせが不十分と思う場合は、コミュニケーションでカバーしている。	・職員お互いが提案をして修正できる心理的安全性のある雰囲気とコミュニケーションを心掛けていきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	1	6	・時差のある勤務体制でもあり各々の終了時間が異なり不十分で翌日申し送りしている。	・申し送り帳に記入するシステムと習慣・意識づけ以外に、リーダー中心に当日共有できるようにしたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1	・こども各々の記録の中で、当事者や管理者の気づきと課題提起で支援の検証と改善を行っている。	・全員の情報共有が不十分であり、記録を徹底できるようにしたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	・職員全体で個別支援計画書を作成し支援とモニタリングを行っている。	見直しが出来るように工夫を継続していきたい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	2	・地域とのつながりは可能な範囲で外出するようにしている。	・職員間で「4つの基本活動」を確認し、複数組み合わせ支援出来るように意識づけをしていきたい。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	1	・職員間で場面に応じて適切に自己選択・自己決定できることばかけの共有をしている。	・各々のこどもへの関わりの中でことば以外の代替手段を使い選択肢の提示が出来るように職員間で情報共有していく。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	・児童発達支援管理責任者と看護師で参画している。	・今後は児童発達支援管理責任者のみではなく、こどもの現状課題に応じて直接支援に関わる専門職が参画する体制を整えたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	・体調管理は連携している。特に医ケア児童に関しては担当保健師の事業所訪問や主治医指示書を取り寄せている。	・学校担任とは下校時に連携するが積極的な意識づけは課題である。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	・保護者と学校担任からの情報提供、学校ホームページや公文を確認している。	・トラブル発生時は速やか電話連絡するなどの体制を取り、ミスがないようなダブルチェックの実施をしたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	0	・幼稚園での担当者会議に出席し教育委員会へ希望する就学前への必要な情報提供を行っている。	・今後も相互理解を図り継続して支援内容を報告していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1	・必要に応じて生活介護などの事前の見学訪問を受けるなど情報提供を行っている。	・今後も適時、円滑に移行支援が出来るように支援内容の情報を提供していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	5	・担当者会議では保育所等訪問支援員からの情報共有から支援の手立てとなるヒントを頂いている。	・必要に応じて依頼してスーパーバイズや助言を受けていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	6	・特性に応じて下校後の個別活動として取り組み始めているが、対象となるこどもに限られている。	・体制上で積極的に実施できていなかった為、整備ができ次第、交流を行ってきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	2	・協議会主催の研修参加は参加しているが、就労移行など直近で対象者がいない研修内容においては優先順位を決めて参加している。	・開催内容と参加の有無が分からない職員への周知が必要である。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	・自宅送りや保護者の迎え引継ぎ時含めて、必要に応じて電話やLINE連絡で状況や課題についての共通理解を図っている。	・今後も工夫してより良い関係を築きたい。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	4	・自治体主催の研修案内など情報提供を行っている。	・法人内の児童部門の中でも家族支援プログラムなどを提供できる体制づくりが必要である。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	2	・契約時や必要に応じて実施しているが丁寧に行う必要を感じている。	・事前に計画立てをして、時間に余裕を持ち保護者面談をする必要がある。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	1	・こどもや保護者の意思尊重と、家族の意向を確認して計画できるようにモニタリング報告書を提示するようにしている。	・丁寧な面談とニーズを聞き取りが必要である。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	1	・計画書を提示しているが、同意を得ている。	・面談により丁寧な支援内容の説明は不十分と感じている為、コミュニケーションの機会と時間を事前に調整したい。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	・相談がある場合は、面談する機会を持っている。	・こちらで可能な助言と支援を行えるように、関係機関とも連携を図るようにしていきたい。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	1	・出来るだけ多くの家族が参加出来るように、家族、兄弟児支援の開催は時季と時間帯、内容を事前に設定できるよう考えている。	・保護者や家族交流会の機会が少なかった為、年に2回は開催したい。 ・父母会活動の支援もニーズに応じて支援したい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	1	・内容によって直接支援する職員に周知しているが、子どもおよび保護者全体へは周知していない。	・今後も事例によって判断をしたい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	0	・HPにブログを年4回は発信している。	・よい情報やお知らせは随時、LINEで行うようにしていきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	1	・写真など個人情報の同意書を保護者に取っている。	・子ども自身や職員にも必要に応じ随時確認する必要がある。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	2	・視覚情報を用いたコミュニケーションツールが少ないと感じている。	・絵カードや点字、簡単な手話サインなど含めて配慮していきたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	4	・民生委員への事業所説明会と見学会の開催、公民館への挨拶から行っている。	・地域交流は可能な範囲で計画していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	・主に活動プログラムで地震と火災訓練は実施している。	・各種マニュアルを職員、家族に周知できるように取り組み、安心して働け、利用できる環境づくりをしていく必要がある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	・医療機器の必要に備えた発電機の敵機能的な試運転も実施している。	・策定しており、役割配置に変化がある場合は速やかな変更と訓練実施が必要。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	0	・必要に応じて予備薬などの有無を確認して使用している。	・今後も必要に応じて確認していく。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	・現在食物アレルギーを持つ児童は把握しているが、経口摂取はしていない。	・必要時に対応していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	・事業所内では対応方法カードと送迎時には緊急時の対応ファイルを掲載している。	・救急時対応の方法も職員全員が確認し動けるように研修と訓練を定期的実施する必要もある。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	2	・BCP業務継続計画を作成している。	・安心安全な計画および取り組みを周知出来るように家族へ周知していきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	2	・ヒヤリハット報告書の件数が少なく、申し送りノートや口頭で確認している。	・職員全員に共有されにくい部分については、報告書の保管閲覧しやすい体制を整えたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	・外部研修に積極的に参加して、伝達している。 ・動画研修でも受講可能な仕組みがある。	・今後も全員が研修受講できる体制を整えたい。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	・基本的に身体拘束は行わないが、自傷や他害につながる場合は行動を抑制することを必要に応じて、保護者に伝えていきます。	・身体拘束の必要がある場合は計画書に記載したい。	